



# 東京芸大の石碑に献花

## 有志の郷土史家ら

東京美術学校（現東京芸大）を設立した美術思想家の岡倉天心に教えるなど、「日本美術界の恩人」とされる米国の哲学者で美術史家のアーネスト・フェノロサ（一八五三—一九〇八年）の功績をたたえる献花式が二十二日、台東区の東京芸術大学美術学部キャンパスにあるフェノロサ画像碑であつた。

（丹治早智子）

## 日本美術界の恩人 もっと知って



# フェノロサの功績たたえ

献花式の主催は地元の郷土史家で谷中石碑研究会代表の加藤勝平さん（八三）。二年前からフェノロサの命日の前後に実行している。

きっかけは、東京芸大

さん遺志でもある」と知らない人が多いと嘆いていた。献花式は平山

る。

画像碑は一九二〇年、フェノロサの十三回忌を

しのび、門人らで建立。

現在の芸大美術館が新築された際、美術学部中央棟前の庭から、美術館脇の現在地に移された。

碑には、フェノロサの肖像画が刻まれ、碑文は名工と呼ばれた谷中の石工八世広群鶴による。加藤さんは碑の研究調査、保存にも取り組んでいる。

上部にフェノロサの画像が刻まれた  
碑。こういう石碑は珍しいという

岡倉天心はフェノロサの東大の教え子。卒業後も通訳として古美術調査に同行させるなど大きな影響を与える。天心が取り組んだ日本の伝統美術復興につながったともいえた。

フェノロサは、明治初期に東京大学に招かれ、講義の傍ら、奈良・法隆寺の仏像調査など、日本美術の研究と収集を続けた。

加藤さんはいう。